

子ども達をふくめ、沢山の参加で植樹

- 土地にあった元気なカイヨヨを -

4月5日(土)中村淳さん宅(南砺市高宮)で植樹行事を実行した。大変おだやかな日和の中で、カイヨヨ倶楽部会員と地元の子どもや親の参加もいただき、総勢37名の大行事となった。中村さん宅は新築5年目でまわりに少し木は植わっていたが、庭敷地約600㎡のエリアを使い、20種54本の植樹を試みるようになった。今度の植樹は得能金市さん(会員)の積極的なご協力、中村さん宅での設定や地区の児童会や役員の方にも声をかけていただき、地元から約20名(うち7名子ども)の参加をいただいた。



みんなで楽しい植樹

今回のカイヨヨづくりのテーマは「土地にあった元気なカイヨヨを」として、3つのエリアで樹叢の「かたまり」をつくった。「スギ、エノキ、サワラ」、「タブ、ウラジロガシ、スダジイ」、「ケヤキ、サワラ、サクラ」の3グループでそれを支える中低木と花木を配置した。10年、30年、50年の節目でその変化を見ることにし、特に参加した地元の子ども達に関心をもって見てもらう意味を、柏樹代表幹事ははじめの挨拶で強調した。この三つのグループは、潜在植生で、風雪に強く、花木も混り、沢山の手入れをしないで樹叢をつくることを想定した。この植樹は、得能さんや、中村さんの御理解を得て実現できたもので、これからの成長と変化に注目したい。

当日は、9時から10時過ぎまで参加者全員で心をこめて、楽しく、予定したところに、植樹した。その後、一服し、得能金市さんから、地区の古事、歴史、地勢について話を聞いた。なかでも、医王山の直下において「ニューヨークはどの方向か」と問題提起され、子ども達はもちろん、参加者一同真剣に考え、その回答を得るまで、沢山の笑いが起きた。

「高宮」は、ヨミの国との境の古い歴史のところで、神代の話や仏教の繁栄したこと、まわりの「ヤドメ谷」、「ウシノケ」の集落名は源平合戦にまつわること、小矢部川の地下水と常風との関係、アイヌ語の入っていること、村と村の境のこと、ヒメ神社の由来、まわりの山々のこと、隣の金沢市とのかかわり等、多岐にわたる地元の方ならではの話に一同感心しきりの楽しい一時をもらった。

中村さん宅での植樹は11時過ぎに終わった。

今回は地元の方々が参加され、子ども達と一緒に木を植えることができ、カイヨヨ倶楽部の新しい結果をつくることになった。この模様を富山新聞、北日本新聞、北陸中日新聞が次日報道した。

